

お客様からのコメント

心温まる沢山のコメントをいただきありがとうございました。

学校での鎧や日本刀、火縄銃に触れてそらう接会は、子供達にとって歴史に興味をもってもらおう大変よい催しですね。私も自治会や老人会等で歴史上の伝説の講演を行っています。又「知られざる戦国史」「野州住吉久の兜鉢考案」「宮本武蔵展で実像考察」等の本も出版し、失なわれることのないよう歴史上の事柄を伝える活動を行っています。80歳となりますので人の名前等記憶が弱くなることと闘っています。「歴史を知らずして今をはなし語ることなかれ」が私の信条です。
<ニックネーム:bushiMさん>

大和魂を読んでいただきありがとうございます。bushiMさんの信条、歴史に学ぶ姿勢の大切さを改めて感じました。子供たちに日本の文化、歴史はこんなにごいんだよ!ということを知ってもらおうきっかけで小学校訪問を始めました。毎授業、子供たちが大興奮し実物に触れ、満面の笑みで色々質問をしにきてくれる姿を見ると、とても嬉しくなります。これから先も、触れて感じる歴史の授業を続けていきたいと思っています。bushiMさんもお元気で、講演を続けていってください。これからもどうぞ大名、大和魂をよろしくお願いいたします。(花本)



受験についての考察、興味深いです。十数年前に受験をした際のドキドキ感をふと思い出しました。毎号楽しみにしております。
<ニックネーム:バスさん>

大和魂を読んでいただきありがとうございます。今は親の立場で、息子、娘の受験にソワソワしていますが、自分の時は、ドキドキして胸が苦しくなったことを思い出しました。今は甲冑、刀等勉強中です。これからもっと知識を増やし、喜んでいただける記事作りをしていきますので、どうぞよろしくお願いたします。(中堀)



日本刀は触ったことはありますが、火縄銃はどんなものか知らなかったのが、今回の記事を読んでなるほどと思わされることが多かったです。
<ニックネーム:大和さん>

大和魂を読んでいただきありがとうございます。小学校訪問で、子供たちが火縄銃に大興奮し、満面の笑みで色々質問をしてきた姿が嬉しかったので、この度記事にさせていただきました。これからも「なるほど～」と思っただけの記事作りをしていきますので、毎号楽しみにしてください。(島谷)



メール・LINEにもたくさん送っていただきました! ありがとうございます!



新春 お年玉プレゼント 当選発表!!

クイズの答え 3人目の名前は「太郎くん」でした!

正解者の中から抽選で真田の具足師様が当選されました!

沢山のご応募ありがとうございました



70等賞

今回の景品は高濃度マイナスイオンヘアドライヤー!

今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。

件名:ニュースレター返信と入力して送信して下さい。



有限会社 大名

最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>

広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp

TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937



届けますっ!

大和魂

2026年4月 Vol.71

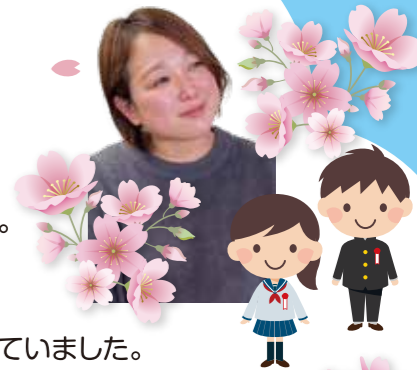
経営理念

有限会社大名は「届けますっ!大和魂」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します



入学式

こんにちは。中堀明美です。春の日差しが心地よく感じられる季節になりましたね。この春、娘の叶笑が中学生になりました。少し大きめの制服姿を見て、嬉しさと同時に、成長の早さに胸がじんわりと温かくなりました。入学式はいつから始まったのか、ご存じでしょうか?現在の形に近い入学式が始まったのは、明治時代だといわれています。西洋の教育制度が導入され、学校という仕組みが整えられる中で、「式典としての入学式」が徐々に定着していきました。こうした「人生の節目」を大切に考える方は、実はもっと昔から日本に根づいていました。



奈良時代~

日本で男子が成人(12~16歳頃)として認められる通過儀礼「元服」がありました。烏帽子を被り、大人の髪型と衣服に改め、幼名を捨てて実名を名乗る。武士社会では家督継承の儀式として重要視され、やがて庶民にも広がりました。それは「守られる立場」から「責任を背負う立場」へと移る覚悟の日でもありました。形は違っても、この意識の切り替えは現代の入学式にも通じるものがあります。



江戸時代~

寺子屋や私塾、藩校では入学時期は特に定められておらず、「学びたい時が入り時」。現在のよう統一された入学式はなく、随時入門する自由な形式でした。

明治時代~

初期の頃、高等教育では9月入学が主流でした。しかし明治19年、小学校で4月入学が奨励され、明治33年に小学校令が定められ、4月開始と変化していきました。さらに大正10年には帝国大学も4月入学へ変更し、全国的に統一されました。

なぜ4月なのか?

「気候が穏やかで木々が芽吹く春を選んだ」という説もあります。一方で、学校運営に必要な予算を国から受けるため、会計年度(4月始まり)に合わせたという実務的な理由もあり、日本ならではの形といえます。ちなみに世界的には9月入学が主流です。ヨーロッパや北米では農業社会の名残から、収穫が終わる秋(9月頃)に学校を始めることが合理的だったため、その習慣が制度となっています。

入学式は、子どもにとって新しい世界への入口。そして大人にとっては、自分自身の原点を思い返す機会なのかもしれません。小学校の時はコロナ渦で、学校行事が縮小されていましたが、毎日を全力で楽しみよく笑う元気な娘でした。思春期な中学生になっても変わらず、よく笑う娘でいてほしいと願っています。春の門出が、大切な学びの日々へと繋がっていきますように。

お調子者の娘です♡

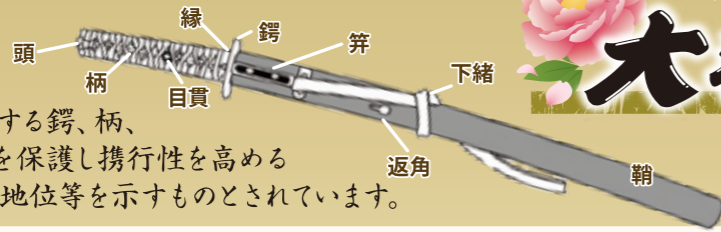
成長しました↓



こんにちは、島谷貴子です。刀装具の柄について語りたいと思います。

刀装具とは？

日本刀の外装である「拵」を構成する鐔、柄、鞘、目貫、拵等の総称です。刀身を保護し携行性を高める実用性と、装飾によって所有者の地位等を示すものとされています。



- 鐔** 刀身を保護する筒状の外装(朴の木などが一般的)。
- 拵** 刀身と柄の間にある円盤状の金具で、手を保護し滑り止めとなる。
- 目貫** 茎と柄を連結する釘で、柄を装飾する。
- 縁頭** 柄の根元に縁と先端に頭を飾る金具。
- 小柄** 鞘の小柄櫃に収まる、カッターのような小型の刃物で、実用的な道具。
- 拵** 鞘の拵櫃に収まり、鬘を整えるのに使われた。
- 下緒** 鞘に取り付けられる紐で、帯に固定するなどの役割

柄とは？

「打撃の吸収」、「刀の操作精度の向上」、「刀の折れや抜けを防ぐ」役割をしています。朴木に鮫皮を貼り、さらに革紐や組紐などの柄糸を巻いています。この手法は「柄巻」と呼ばれ、戦いや稽古で手が汗ばんでも、しっかり握れるようにするための滑り止めや、衝撃吸収の役割をしています。柄に命を預けているといっても過言ではない為、専門の柄巻師が柄巻を行っていたとされています。他に「縁・頭」、「目貫」、も施されています。

	平安～鎌倉、南北朝	戦国時代	江戸時代
どんな柄？	格式を重視したもの 儀礼的	見た目より強度、破損しても修理のしやすいもの 両手でしっかり握れるように少し長め	デザイン性と機能の両立をしているもの
柄の素材は？	ほおのき 朴の木	ほおのき 朴の木	ほおのき 朴の木
柄巻の素材は何？	光沢があり発色が美しい絹糸	鹿の革で出来た革巻 木綿で出来た木綿巻	絹で出来た正絹の柄巻
巻き方は？	平のまま巻くため紐による 盛り上がりが少ないのが特徴	実用性重視だった為、巻きが荒く・太い	デザイン性重視だった為、菱目が均整で 巻きの締めが非常に精密な菱巻
鮫皮の必要性は？	重要(補強が目的)	重要(粒が大粒なもの)	重要(白く整形されたもの、一枚物の鮫皮)

柄巻の代表的な巻き方は？

片手巻きに使われていた材質は、血や汗を吸い、滑りにくくしてくれる「木綿」と濡れてもグリップが落ちにくくしてくれる「鹿革」。柄の下半分を強く密に巻くことで握力がかかる位置をガチガチにし、上部は大粒で引っ掛かりのある鮫皮を露出することで、粒の摩擦が手のひらと柄が滑りにくい状態にしていたとされます。

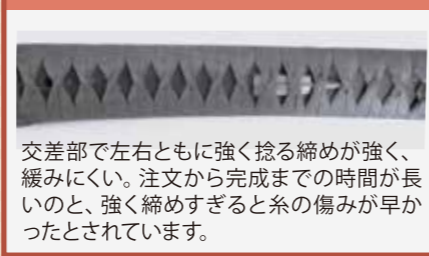
実戦向きの「片手巻」



見た目の美しさでは「菱巻」



耐久性も高く、完成度重視の「諸捻巻」



上手い柄巻は「見た目も、握り心地も、耐久性も別格！」刀を扱う人の世界では、「柄巻を見れば、その刀の扱われ方がわかる」とまで言われていたそうです。

戦の在り方が騎馬戦中心から歩兵戦中心へと変化するにつれ、刀の扱い方も大きく変わりました。

それに伴い、柄巻も単なる格式の象徴から、握りやすさや耐久性を重視する実用的な仕様へと発展していきました。

江戸時代になると、見た目の美しさと機能性を兼ね備えた柄巻が追求されるようになります。

そうした歴史的背景を踏まえ、私は機能性と均整美を兼ね備えた紫色の諸捻巻を、柄巻師をお願いしたいなあ～と思いました。皆さんはいかがですか？

ハナエモン



タイムスリップ!



今年は大河ドラマで「豊臣兄弟」が放送されていますので日本の歴史上で有名な兄弟をご紹介します。今号はこの兄弟にタイムスリップ!



鎌倉幕府を開いた初代将軍: 頼朝と
天才的な戦術家: 義経の兄弟。
みなもとの よりともの よしつね
源頼朝・義経
(1147-1199年) (1159-1189年)

兄弟はバラバラに...

平治の乱(1159年)で二人の父である義朝が平清盛に敗れたことで、頼朝は伊豆の有力豪族: 北条家の監視下に置かれ、義経は鞍馬寺に預けられました。やがて頼朝は北条家の娘: 政子と結婚をし、東国豪族との強い結びつきを得ます。一方、北条家としては源氏の正統後継者との縁を得る事が出来ました。義経は鞍馬寺に預けられた後に義朝とも関係の深かった奥州藤原氏の元に向かいました。奥州藤原氏は、現在の岩手県南西部・平泉に本拠を構え、当時は「北の都」と称されるほどの繁栄を誇っていました。京都からは遠く離れており、地理的にも軍事的にも独立性が高かったため、平氏といえども容易には干渉できない地でした。頼朝は東国で、義経は奥州で、それぞれ別の地において生き延びたのです。

20年の時を経て、いよいよ挙兵!

頼朝は1180年、後白河上皇の皇子・以仁王の令旨を受けて挙兵します。頼朝の挙兵に応じて、義経も平泉を立出し、兄と再会を果たします。初戦では敗れるものの、平氏の絶対的権力者の平清盛が亡くなった事で、各地で源氏の勢力が拡大していき、平氏は西国に逃げていきます。都落ちした平氏の残党を討伐するのに活躍したのが義経でした。義経は機動力、心理戦、奇襲戦術を駆使し、平氏を次々と破っていきます。更には不慣れな水上戦にも柔軟に対応し、平氏討伐の最大の立役者となります。

兄との対立の始まり

源平合戦終盤、義経は朝廷と直接関係を持つようになります。平氏滅亡後に朝廷から官位を受けます。朝廷側としては、武家に権力が集中しないように平氏と源氏を削り合わせたかったのです。平治の乱で源氏の勢力を削り、平氏が台頭すると源氏に挙兵を促し、平氏を滅ぼしました。次は源氏の兄弟間を裂く事で武家勢力を削ろうと考えたのです。その誘いに義経がまんまと乗ってしまった事で、兄弟の対立が始まりました。頼朝としては武家中心の政権を構築していきたいと考えていたので、義経の行動は武家政権の統制を無視した行動になってしまいます。これを許すと各地の武士達も頼朝の政権ではなく、朝廷の方を向いてしまう可能性があるため、義経を許すわけにはいきません。

勝者の兄と悲劇の弟

兄の怒りを知った義経は急ぎ、兄の本拠地である鎌倉へと戻ってきました。しかし、鎌倉に入る事を許されず、縁のある奥州平泉に逃げていきます。

かつて、義経を庇護してくれた奥州藤原氏ですが、世代交代により、頼朝の圧力に屈してしまい、義経は襲撃され、自害をしました。東北も頼朝の鎌倉政権の支配下となりました。



頼朝は伊豆へ流罪となった流人からの出発。挙兵したとはいえ確固たる支配基盤を持っていなかったのも事実です。一方、義経は源平合戦で大活躍した事で名声を得ました。頼朝の許可なく、朝廷から直接官位を受ける事は制度化の途中だった頼朝武家政権を揺るがすことに繋がりがねませんでした。功労者の弟を討った兄ではなく、不安定な武家政権を守る為に統制を乱す存在を排除せざるおえなかったのでしょう。そして、義経も頼朝と対立する未来を描いていたのではなく、当時の武功を挙げた武家が朝廷から官位を受けるといった当たり前の流れで受けただけなのです。ただ、兄の頼朝は朝廷を中心とする既存の流れから武家を中心とする新しい流れを描いていたのですが、それは弟には伝わっていませんでした。